

6月放送総局長定例記者会見要旨

**(1) 新潟県震度6強・山形県震度6弱の地震対応について (木田放送総局長)**

6月18日夜、山形県沖で発生した地震では、新潟県村上市で震度6強の揺れを、山形県鶴岡市で震度6弱の揺れを観測した。

NHKは、緊急地震速報が出された午後10時22分に、総合テレビで直ちに災害報道に切り替えて放送を開始した。2分後の午後10時24分には、最大震度が震度6強と気象庁から入電したことから、テレビ6波、ラジオ3波の全9波で臨時ニュースとして放送した。

このうち総合テレビでは、津波注意報が解除されたあと、翌19日午前1時30分まで特設ニュースで地震の報道を続けた。その後も、午前2時、3時、4時の毎正時から10分の特設ニュースでお伝えした。インターネットでは、18日午後10時26分から翌19日午前9時26分までの間、地震に関するニュースを同時提供した。

またテレビの特設ニュースでは、日本にいる外国人などのため、副音声で、国際放送NHK WORLD-JAPANの英語による音声ができるようにした。

NHKは、人命や国民生活に重大な影響を及ぼす非常事態が起きたとき、視聴者の方々が正確で迅速な情報を求めていることから、公共放送としての期待に応え、正確でわかりやすい情報を、あらゆる伝送路を使って、より早くお伝えしている。また今後、NHKは二次被害をできるだけ防ぐ「防災・減災」報道に力を入れていく。

(詳細は配付資料を参照)

**(2) 夏の特集番組「東京オリンピック・パラリンピック」関連 (木田放送総局長)**

開幕まで1年あまりとなるが、NHKではこの夏、オリンピック・パラリンピックに関する多彩な番組を取りそろえている。

総合テレビでは、7月24日と8月28日に「2020スタジアム」をお送りする。7月の放送回では、NHK東京2020オリンピック・パラリンピック放送スペシャルナビゲーターの「嵐」のメンバーが、メダル獲得を目指すアスリートや、各国の選手団を迎え入れるホストタウンなどを取材し、あと1年に迫った現在の様々な表情をお伝えする。8月の放送回では、国内外のパラアスリートに出演してもらい、パラスポーツの面白さや奥深さを特集する予定。

8月25日に放送するNHKスペシャル「KIZUNA」は、パラ陸上の視覚障害のある選手と伴走者、2組に密着した。1組は100メートルを10秒台で走るアメリカのペア、もう1組は日本のマラソンのペア、いずれも世界記録保持者だ。転倒やケガのリスクと隣り合わせで走る2人をつなぐのは長さ30センチのロープ、その名も「絆」。番組では、最新科学とドキュメンタリーで、2人の間にある、単なる「支える-支えられる」という関係ではない究極の絆に迫る。

Eテレでは、「きょうの料理」で7月と8月に特集番組を放送。7月24日の放送では、1964年東京大会をルーツに持ち、現在に伝わる料理を紹介する。8月26日には、第一線で活躍するパラアスリートを支え、窮地を救ってきた「チカラめし」を紹介する。

BS1では、「世界はTokyoをめざすスペシャル」で、飛び込みで東京オリンピック出場を目指す3きょうだいを追ったドキュメンタリーをお送りする。金戸華・快・凜のきょうだい3選手は、祖父母も両親も元オリンピック選手という「飛び込み一家」。このうち、末っ子の凜選手は、ことし4月の国内の大会で優勝して7月の世界選手権の代表に決まり、オリンピック代表の座をかけて戦うことになった。3きょうだいの成長とそれを見守る家族を長期密着取材で追った。

(詳細は報道資料を参照)

### (3) 夏の特集番組「“戦争と平和”を考える番組」関連 (木田放送総局長)

NHKスペシャルでは、8月11日に「完全復元 ガダルカナルの戦い」をお送りする。

太平洋戦争最大の分岐点となった「ガダルカナルの戦い」について、NHKは今回、謎に包まれた死闘の克明な経緯を明かす戦闘記録を発見した。分刻みのタイムラインで、日米両軍がどう動いたのか、まるで戦場に居合わせたかのようにリアルに“復元”できる資料だ。そこから浮かび上がるのは、日米両軍の“知られざる一進一退の攻防”。従来、日本軍が「無謀な作戦」を進めたとされる「ガダルカナルの戦い」だが、当初はアメリカ軍の方が厳しい状況にあった。番組では、ガダルカナルの陸海空の戦場を3Dデジタル空間として復元し、日本軍が敗北に至った戦いの全ぼうを明らかにする。

8月10日のNHKスペシャルでは、「# (ハッシュタグ) あちこちのすずさん ~戦争中の暮らしの記憶~」をお送りする。

「#あちこちのすずさん」は、去年8月に放送した「クローズアップ現代+」で、映画「この世界の片隅に」の主人公・すずさんのように厳しい時代を懸命に生き抜いた庶民の暮らしを取り上げた際に、立てたハッシュタグ。そうしたところ、「自分も家族からエピソードを聞いた」という投稿がネットに殺到した。NHKスペシャルでは、こうした「デジタル時代の戦争伝承」ともいえる現象をとりあげる。

この「#あちこちのすずさん」は、NHKスペシャルだけでなく、「あさいち」「クローズアップ現代+」やラジオ第1で放送している「らじらー！」など、さまざまな番組が連動するキャンペーンとして展開していて、ヤフーニュースとも連携して進めている。NHKスペシャルには、若者に人気の「らじらー！」でMCを務める Hey!Say!JUMP の八乙女光さんと伊野尾慧さんがリポーターとして出演し、寄せられたエピソードを取材する。さらに、エピソードはアニメ動画やイラストで再現し、各番組やウェブサイトでも紹介する。

NHKスペシャルが放送される時間帯は、通常ラジオ第1では「らじらー！」を放送しているが、この日は総合テレビと同じNHKスペシャルを音声波でもお届けする。

なお、映画「この世界の片隅に」についても、8月3日、総合テレビで放送する。

また8月には、日本の占領下にあったフィリピンに渡り戦火に追われ、辛くも生き残った女性たちが書き残した戦争体験をもとにした、特集ドラマ「マンゴーの樹の下で」を総合テレビなどで放送する。

太平洋戦争中、日本の占領下にあったフィリピンには、現地に進出した日本企業で働く多くの日本人女性がいた。アメリカ軍の進攻が本格化する中、マニラを脱出した女性たちは過酷な逃避行を続け、多くの女性たちが命を落とした。辛くも生き残った女性たちの戦争体験をもとにしたドラマでは、戦後を生き抜いたヒロインを岸恵子さんと清原果耶さんがリレーで演じる。

またドラマとは別に、BS1では長編ドキュメンタリー「マンゴーの樹の下で~わたしはこうして地獄を生きた~」を放送する。ドキュメンタリーは、逃避行のさなかに作られた3千人の避難民名簿を手がかりに徹底取材し、生存者の証言と残された手記から、南国の島で「楽園」と「地獄」を体験した女性や子どもたちの知られざる物語を掘り起こす。

ラジオ第1では、8月9日に、ドキュメンタリー番組「歌に平和の願いを込めて」をお送りする。長崎に移住してきた男女5人の音楽グループが、地元の人から「被爆地長崎のために平和を願う歌を作ってほしい」と依頼されたのをきっかけに、平和について深く考え、葛藤しながらも曲作りに向き合う姿を追ったドキュメンタリー。

(詳細は報道資料を参照)

#### (4) 「讃岐の秘宝“衆鱗図”の謎に迫る」 (鈴木副総局長)

BS4Kでは7月6日に、「讃岐の秘宝“衆鱗図”の謎に迫る」を放送する。

今から250年ほど前の江戸時代に、四国高松藩主の松平頼恭は、鯛やサワラ、クラゲやエビといった海の生き物723点を肉筆で描いた、日本最古の本格的な魚類図鑑「衆鱗図」を作った。一枚一枚細かく規則的に描かれたうろこや、複雑な色で何層にも塗り重ねられた体など、高度な技術を駆使したリアルな表現で、魚たちは今にも動き出しそうなほど生き生きと描かれている。この図を誰がどのように描いたのかは、これまで謎に包まれていたが、取材を進めていくと、似たような図が日本各地にあることがわかった。あの平賀源内も関わっていた可能性があるという。

番組では、衆鱗図を4K超高精細カメラで撮影し、肉眼でもとらえることができなかった細部までを映像化した。その映像から精緻な技術を解き明かし、讃岐の秘宝の全貌に迫る。

(詳細は報道資料を参照)

#### (5) BOSA I 学びの旅～水害編～ (正籬副総局長)

7月8日に放送する、BS1スペシャル「BOSA I 学びの旅～水害編～」は、海外に発信している国際放送「NHK WORLD-JAPAN」の高雄美紀キャスターが気象学や河川工学などの専門家とともに日本各地やインドを訪ね、水害対策に取り組む人々と出会いながら学びの旅をする。

水害は、世界の極めて広いエリアの人々が共通して苦しんでいる深刻な課題だ。国内では、去年の西日本豪雨など、大きな被害がたびたび発生しているほか、南アジアでは毎年のように7月から9月の雨季に大規模な洪水が起きている。さらに近年では、人口増加、地球温暖化などによる気候変動を背景に、被害の拡大が懸念され、一層の対策が求められている。日本では、最新の取り組みと450年前に生まれた治水の知恵をひもとく。インドのガンジス川流域の聖地・バラナシでは、新たに始まった、一般市民を巻き込んだ災害に強いコミュニティ作りと教育の現場での取り組みを訪ね、これからの「BOSA I」のあり方を考える。

(詳細は報道資料を参照)

#### (6) 「世界の“凄(すご)ワザ”キング」 (鈴木副総局長)

BSプレミアムでは、7月20日に特集番組「超密着！世界の“凄(すご)ワザ”キング」を放送する。ニッポンの技術の達人「匠(たくみ)」は、さまざまな形で番組に取り上げられてきたが、今回は、世界各地の凄い技を持つ匠たちに密着取材し、その様子をお伝えする。

アメリカでは、ミシガン州の五大湖にかかる巨大なつり橋・マキナック橋を守り続ける匠がいる。つり橋を支える、湖面から高さ168メートルの柱の上で、補修と塗装を続けている職人だ。60年以上前に建設され、地元の大動脈となっている橋を朽ちさせないための命がけの作業を、仕事に見える、五大湖を一望する360度のパノラマとともにお届けする。

またカナダには、1万年前の氷河から流れてくる巨大な氷山を回収する匠がいる。元漁師で、大型の重機と網のある専用の船で海に出る氷山ハンター。氷山は最高の天然水として、地元の工場でウオッカの原料となる。

スケールの大きい絶景をご覧いただきながら、凄い技で仕事に取り組む匠たちの、誇り高い世界を知ることができる番組だ。

(詳細は報道資料を参照)